

## 「ワタシノ」の居場所創造によるまちの活力創造事業

## 雇用

- ・大型機械等の導入による経営の大規模化
- ・圃場拡大による未利用圃場の減→新規就農が難しい
- ※新たな就労環境を創出し、次代を担う町づくり人材を確保

## 観光

課題・問題点など

- ・交流人口の増 年25万人増
- ・働く場の確保・町税の増  
→しかし、その効果の波及が部分的なものになっている。
- ※まち全体へ資金・人を環流させたい。

## 町

- ・人口減少、少子高齢化
- ・地域商店の衰退  
→中心市街地、住民の活力の衰退
- ※地方創生の原点である、住民の活力の増進を図りたい。

小清水町まち・ひと・しごと創生総合戦略における重要戦略

## SIBの導入

- ・運転資金の確保ではなく出資者数(100名)を設定し、関係人口の増(まちづくり応援パートナー)を図る。
- ・にぎわいの創出を目的としたSIB事業
- ※日本総研の協力により、制度設計国内大手のクラウドファンディング「キャンブファイヤー」の出資型SIBを活用

応援出資金

## にぎわいのある空間

スポーツジム

カフェ

ランドリー

NPOグラウンドワークこしみず

構成団体

町、商工会、ルネサンス、OKULAB、  
乃村工藝社

指定管理

## まちの役割

- ・カフェエリアのコンテンツ設定
- ・にぎわい創出成果報酬(SIB契約)
- ・人材の確保、生活面の支援

デジタル化の推進

今後の展開

## IoTの推進

- ・予約管理システム
- ・キャッシュレス

## 次代のまちづくりを担う人材

## 地域おこし協力隊 6名採用(4月)

- ・札幌市: 2名・釧路市: 1名・北見市: 1名
- ・中標津町: 1名・神奈川県: 1名(中途採用)

## 地域活性化起業人 1名(ルネサンス)

- ※企業研修者との橋渡し
- 持続的運営可能に向けたノウハウの伝授

運営職員

関係人口の創出

## ワーケーション・企業の研修

- ・まちづくり協力企業の受入
- ・農業拠点施設を活用した農業体験
- ・にぎわいの空間を利用した住民交流
- ・空間と連携したアウトドアフィットネスの実施

## DX化の推進

- ・行政サービスと連携(住民票・税等の納付)
- ・各種ポイントの連携(行政事業参加によるポイント・地域商店の共通ポイント)

# 「ワタシノ」居場所創造によるまちの活力創造事業 計画変更について

	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)
賑わいのある空間整備事業	<b>【単独】</b> ●施設整備（設計、建設） ●運営組織の設立 ●ソフト事業実施に向けた基礎調査 ●地域活性化起業人制度の活用によるノウハウの伝授（1名） ●地域おこし協力隊の活用（1名）	<b>【推進】</b> ●人材募集・育成 ●プログラムの策定 ●集客方法の検討 ●事業実施体制の構築 ●施設整備（スポーツジム機器） <b>【単独】</b> ●施設整備	<b>【推進】</b> ●人材の育成・募集 ●施設利用実績による事業の検証・再構成	<b>【推進】</b> ●施設利用実績による事業の検証・再構成 ●事業拡大に向けた調査・設計（近隣自治体との連携事業、イベントの設計）
関係人口創出事業	<b>【単独】</b> ●ボルタリングの設計	<b>【推進】</b> ●空間利活用・プロモーション最適化計画  <b>【単独】</b> ●施設整備（ボルタリングの設置）	<b>【推進】</b> ●ワーケーション施設と連携した企業向けのパッケージの検討 ●アウトドアフィットネスニーズ調査及びプログラムの策定 ●町内の資源等を活用した企業研修の調査・設計 ●移住相談窓口の体制の整備	<b>【推進】</b> ●アウトドアフィットネスの実施及びPR事業 ●町の資源等を活用した企業研修の実施・PR事業 ●外部人材による住民向けワークショップ開催支援
DX化推進事業	<b>【単独】</b> ●基本情報・デジタル化該当事業の収集	<b>【推進】</b> ●予約・管理システムの導入 ●キャッシュレス対応精算機	<b>【推進】</b> ●行政DXとの連携（住民票の発行や収納業務） ●各種サービスアプリの機能拡充	<b>【推進】</b> ●地域商店との連携（共通ポイントの導入やキャッシュレス化の推進） ●自治体事業参加ポイントの設計